

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2012年8月18日）

— 学習支援活動・押し花教室・茶話会 —

8月18日朝7時15分、晴天の中、学習支援定期便が弘前大学前を出発しました。この日の参加者は市民7名、学生7名、教員2名の計16名でした。中には、18日から三泊四日で行われるシャレットワークショップに参加予定の学生も5名含まれていました。また、学生事務局の田上君は18日から野田まつりまでの長期滞在の予定で野田に向かいました。何日も宿泊先や食事の心配なく訪ねて行ける場所があるなんて、何と幸せな若者でしょう。これも野田村のお陰です。感謝感謝。

バスは順調に野田村に向かい、10時過ぎには野田村役場前に到着しました。参加メンバーの中には、今回が初参加の学生もいたため、初参加者や市民の皆さんのために、教員事務局、李がチーム・オール弘前の今までの経緯と野田村の現在の状況に関して、簡単に説明を行いました。改めて振り返ってみると、大変なことをやってきたという実感が湧いてきました。

本日の活動は野田村総合センターの一階の和室で行いました。我々が到着すると総合センターの前には、顔なじみの村民の皆さんが、「待っていましたよ」と声をかけてくれました。暑い中、お集まりいただき本当にありがたいことです。



道の駅おりつめでの集合写真



押し花教室の様子

活動は三つの班に分かれて行われました。シャレットワークショップと学ボラ、茶話会&押し花教室。シャレットワークショップは、首都大学東京、工学院大学、八戸高専、弘前大学の学生たちが、短期間（三泊四日）に野田村の街づくりに関して、集中的に学習する勉強会のことです。昨年に引き続き、今年は教員、学生合せて総勢60名弱の参加となりました。集まるだけで野田村への復興支援となりました。

茶話会と押し花教室は、村民10名弱が参加して、いつもながらにぎやかな様子でした。



シャレットワークショップの様子



学ボラの様子

今回も石田先生とお母様にご協力くださいました。毎回、押し花用のお花も持参していただき、ありがたいかぎりです。石田先生のような市民ボランティアの皆さまのお陰で継続できているんだと改めて思いました。ありがとうございました。

学習ボランティアは、お盆休みなどで連絡がうまく取れず、広報がまったくできていなかったこと、前日に別の団体のイベントがあったこと、そして夏休みの最後の週末で溜まっていた宿題に子供たちが追われていたこともあって、午前中は参加者ゼロでした。連絡ミスがあったことについては、大変申し訳なく思います。繰り返さないように注意したいと思います。

午後からは、子供たちが2～5名ほど集まって来たので、子供たちとお話やお絵書きを始めました。今回は、高学年の女子が2～3人来てくれて、大学生のお姉さんたちと何やら人生相談のような話をしていました。近くにいる家族や友人とのコミュニケーションとちがい、大学生には相談相手として心を許しやすいのかもしれないですね。今後はこのような活動も大事にしていきたいと思いました。

いくつかの課題も見つかりましたが、本日も無事に活動を終わることができました。ご協力ありがとうございました。

李永俊